

学校評価シート（秋田県立大曲支援学校せんぼく校）

評価領域	教育課程
------	------

重点目標	地域（社会）に開かれた教育課程の実現と特色ある教育活動の展開
------	--------------------------------



現 状	<p>開校以来、「地域が教室」をテーマとする教育活動に取り組み、昨年度は組織的な取組の必要性から、校内組織「『地域が教室』実行委員会」を設置した。今年度は、地域（社会）に開かれた教育課程の実現に向けて全体像を整理しながら、教育活動の充実を図る必要がある。</p> <p>また、教育活動に関わっている方々などを対象にした「地域が教室」はじめの会・まとめの会を今年度も実施し、協議等を通して参加者同士のつながりも促していく必要がある。</p>
-----	---



具体的な目標	「地域が教室」の充実と「地域が教室」はじめの会・まとめの会によるせんぼく校を支えるネットワークの拡充
--------	--



目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 「地域が教室」をテーマとする教育活動の全体像の整理と共通理解 学習成果の紹介を通して本校への理解推進を図る「せんぼくいきいき5デイズ」の実施 教育活動に関わっている方々などが参加し、授業参観や協議等を行う「地域が教室」はじめの会・まとめの会の実施
------------	---



具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 「地域が教室」をテーマとする教育活動の概要を整理し、職員に周知した。「地域が教室」はじめの会・まとめの会の趣旨説明では、概要の一部として「地域が教室」をテーマとする教育活動の目標を伝えた。 「せんぼくいきいき5デイズ」は、秋の観光シーズンに角館の中心部で小・中学部2日間、高等部5日間実施した。活動内容として、宣伝、武家屋敷案内、作業学習紹介、作業学習製品販売、太鼓演奏を行った。 5月の「地域が教室」はじめの会には19名、2月の「地域が教室」まとめの会には26名の参加があった。いずれも2部制で行い、第1部として授業参観、児童生徒による活動へのお願いや報告を行った。第2部はグループに分かれ、せんぼく校について自由に語り合う「語り場」を行った。
----------	---



達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 整理した「地域が教室」をテーマとする教育活動の概要を踏まえ、全校や各学部での教育活動を進めた。全体像として、全体計画と活動一覧を作成中である。 クマの出没を想定し、安全対策を取りながら実施した。国内外から多くの観光客が来ており、児童生徒の意欲的な取組を通して、本校の取組に対する理解推進を図ることができた。高等部は期間を延ばしたことで、主体的に取り組む姿が多く見られた。 児童生徒が教育活動へのお願いや報告を行った後に「語り場」を行う構成は、児童生徒の姿や思い・願いを念頭に置いた協議となり有効であった。「語り場」を前半と後半に分け、後半は自由に席替えし、より多くの方と語れるようにするなど、参加者同士のつながりを促した。
------	---



P

D

自己評価	(評価) A	(根拠) 「地域が教室」をテーマとする教育活動については、地域の方々の理解と協力を得ながら、計画を吟味し、活動を工夫したことで充実した取組ができた。 「地域が教室」はじめの会・まとめの会については、本校に関わる様々な立場の方々に参加いただき、本校を支える役割として定着しつつある。	C
------	---------------	--	---

↑ 評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

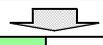
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 「地域が教室」をテーマとする教育活動が、児童生徒のより意欲的・主体的な取組につながっており、地域住民の理解や協力体制も深化しつつある。また、「地域が教室」はじめの会・まとめの会での児童生徒の発表や「語り場」等の設定により、関係者の横のつながりも強まっており、児童生徒の活躍の場が着実な広がりを見せている。	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域が教室」全体計画を踏まえ、教育活動の一層の充実を図る。 ・「地域が教室」はじめの会・まとめの会による関係者のネットワーク作りを推進する。 	A
-----------------------	---	---

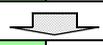
学校評価シート（秋田県立大曲支援学校せんぼく校）

評価領域	研究
------	----

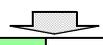
重点目標	児童生徒一人一人が主体的に学び、学びを広げる姿を目指した国語の授業づくり
------	--------------------------------------



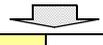
現 状	昨年度の課題として、思考・判断・表現に関わる、児童生徒一人一人の実態に応じた主体的な学びの不十分さが挙げられた。また、その要因を、国語科における育成を目指す資質・能力や言語能力の不足と考えた。
-----	--



具体的な目標	国語の授業づくりにおいて「児童生徒一人一人が主体的に学び、学びを広げる姿」を育む。
--------	---



目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 国語科の段階、目標等の設定 (2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成 (3) 重点事項に基づく国語の授業づくり・授業実践 (4) 各教科等を合わせた指導等における学んだことの活用
------------	--



具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 国語科の段階、目標等の設定 学習指導要領（各教科等）で確認しながら、個々の児童生徒の学習状況を把握した。また、少しがんばればできる内容に焦点化しながら学習状況に沿って段階、目標、年間単元を設定し、年間指導計画や個別の指導計画に反映させた。 (2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成 単元配列表を活用して国語科と各教科等を合わせた指導等とを関連付け、国語科で目指す資質・能力（＝個別の指導計画の年間目標）を他の学習や生活場面でも活用する場面を設定し、年間指導計画に反映させた。 (3) 重点事項に基づく国語の授業づくり・授業実践 <ul style="list-style-type: none"> ① 重点事項について <ul style="list-style-type: none"> ア. 具体的に考える場面の設定と工夫 児童生徒の実態等に応じて実際の・具体的な活動や言語活動を通して、「気付く、思考する、選択する、発表する」など、具体的に考える場面を設定した。 イ. めあてとまとめの工夫 指導目標の達成に迫る、焦点化した内容にしたり、「何を学んだか」明確にし、次時の学びにつなげたりできるようにした。 ② 授業づくり・授業実践 国語科の授業を提示して、全校授業研究会（計3回）、学部授業研究会（計3回）、授業を見合う会（計8回）で研究協議を行った。 (4) 各教科等を合わせた指導等における学んだことの活用 各教科等を合わせた指導等において、国語科の単元で学んだことを活用することで、般化を促したり、達成感を生み出したりするなど、学びを広げる姿の育成を目指した。
----------	---

P

D

達成状況	<p>(1) 適切な年間目標の設定 学習指導要領や指導内容確認表をもとに国語科の児童生徒一人一人の年間目標を考え、グループ協議を通して複数の目で検討したことで、年間目標を改善したり職員間で共有したりすることができた。</p> <p>(2) 単元計画の工夫 単元のゴールとして他の学習場面での発表を設定したり、体験を言語化したりするなど、単元を通して「具体的に考える場面の設定と工夫」を行うことができた。また、単元目標も焦点化され、繰り返し取り組んだり系統性をもたせたりして目標達成につなげることができた。</p>	
------	--	--



自己評価	<p>(評価)</p> <p style="text-align: center;">B</p>	<p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の目で国語科の年間目標を検討したことは評価できる。より適切な実態把握に基づく目標を設定するために、学部グループ内で年度途中で評価を行い、目標を見直したり評価したりすることが必要である。 国語科の目標を達成するために単元配列表を活用して国語科と他の学習場面との関連付けを図った。しかし、実践や定着の状況として不十分に感じている教員も多く、国語科の指導内容と他の学習での活用場面を関連付けるツールの活用等、学びを広げる姿を育む仕組みづくりが必要と考える。また、適切な言語環境づくりも重要となる。 	C
------	---	--	---

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	<p>(評価)</p> <p style="text-align: center;">B</p>	<p>(意見)</p> <p>昨年度の課題から、個々の実態に応じた主体的な学びの不十分さをあげ、その要因の一つ国語に絞り、教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成、重点事項に基づく国語の授業づくり・授業実践は有意義であった。</p> <p>国語科と他の学習場面との関連付けでは、適切なツールや学びを広げる具体的な工夫に努めるとともに、児童生徒の主体的な学びや学びを広げる姿につながる適切な言語環境づくりにも努めてほしい。</p>	C
------------	---	--	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の指導内容と他の学習での活用場面を関連付けるツールの活用等、学びを広げる姿を育む仕組みづくりを進める。 教師が適切な話し言葉や書き言葉に努めることをはじめとし、適切な言語環境づくりを進める。 	A
-----------------------	---	---